

◆ 会員紹介 22

特定非営利活動法人 宮崎 CALS ネットワーク

建設 CALS/EC 促進と次世代建設技術者確保の為に

梅雨とはいえ雨ばかりで太陽が待ち遠しい毎日、どんよりとした空と蒸し暑い空気、そこに冷たい雨が降り注ぎ晴天の日が例年になく少なく太陽の光を忘れかけてしまいそうな南国宮崎に私達の、特定非営利活動（NPO）法人宮崎 CALS ネットワークがあります。

10年前の平成 17 年 9 月 7 日、特定非営利活動法人宮崎 CALS ネットワークの設立登記が完了した日である。当時、建設 CALS が日本国中を駆けめぐり、宮崎県でも、建設業の IT 化と建設 CALS を進めるべく、いち早くプロジェクトチームを結成し体制を整えようと共々、民間から人材を求めべく県内の建設 CALS/EC 有資格者が集まったのが始まりである。

CALS/EC は当然のことながら、IT に関してもある程度の知識を有している資格者は、宮崎県土木部が CALS/EC を円滑に進められるよう県内各地で、建設業者に対し講習会を開催する場合の講師として協力を求められていた。当初各自が個人の資格で、参加していたが、組織立っての協力が必要と考え、NPO 法人の設立となったのである。

まだまだ NPO の認識が低い地方の小さな町である、NPO=ボランティアしかも、福祉関係団体が無料の活動を行っているといった偏見とも取れる間違った情報が事実となっていた、そんな中、建設業関係での NPO 設立である、担当する行政機関の職員でさえ奇異な目で見ていたのを記憶している。

大変な中で船出した NPO であるが、1 年後追い討ちをかけるような事件が発覚することになる、宮崎県知事を巻き込んだ官製談合事件である。宮崎県土木部を混乱に落とし込んだこの事件だが、建設 CALS にとっては加速材になった部分もあった、それが入札の透明化に繋がる電子入札の早期導入である。またこの事件で、県知事も変わる事になり、名前は伏せるが芸能界から皆さんご存知の知事さんが登場する事になるのである、新知事が建設業にとってどのような影響があったかについては、また別の機会にでも個人的主観としてお話しすることもあるかとはここでは割愛することにする、ただ建設業に携わる者として忘れることの出来ない 4 年間の始まった事を記憶に留めてほしい。



2006 年 3 月 3 日 第 1 回宮崎県 CALS/EC シンポジウム

電子入札導入が決まって、宮崎県は建設 CALS/EC に向け着実に進展する、国の方針と言うことで土木部から県土整備部に名称が変わった県も普及に力を入れ、電子納品についても導入工程が決定し私達の NPO にも、講習会等依頼が増え続け NPO の会員も、20 名を越し順調に会員数が増加していった、2006 年 3 月には、国土交通省本省から講師を招き大きな会場を使い独自セミナーも主催、県内の建設コンサルタント技術者や土木技術者の関心も高く沢山の来場者を迎えるなど活動の場が広がっていった

宮崎県で電子入札が始まり、普及から指導に変わる頃、県土整備部内でもプロジェクトチームの解散、人員の削減など体制が変化してゆく、それに伴い、県土整備部主催の講習会が激減し CALS/EC の熱も冷め始めた、少なくなった講習会も平日開催となり、殆どの NPO 会員が会社員であるため、所属企業の理解が得られず、実質的に活動する会員が固定するようになっていった。

宮崎県県土整備部は、電子入札が始まったことであたかも CALS/EC が達成したかのようになり、職員の間から CALS/EC という言葉が出なくなってしまい、それでも業務委託では、電子納品が必須となり基準等が整備された、昨年度からは建設工事においても電子納品の試行が始まり、電子入札も県内の 3 市が宮崎県のシステムを利用して導入した。

国土交通省は CALS/EC から次世代電子化へ方向転換し、(一財)日本建設情報総合センター (JACIC) では CALS/EC の新規資格試験を取りやめ、今月 (平成 27 年 6 月) には更新を無くし永久資格とするとの発表が JACIC からあった。わずか数年で終わったこの資格はいったいなんだったのだろうか、そもそも新規試験もなく更新もない永久資格に価値があるのか、その有資格者が集まった NPO はこれからどうあるべきか、再考の時期に来ているのではないかと、そんな話題が理事会の議題に上がり日々頭痛の種になっている。

今年度も電子入札、電子納品の講習会が予定してある、Win8.1 など PC の進歩に CALS/EC の基準が追いつかず、多種多様な PC を所有する受講生のためテキスト作成担当メンバーは今年も眠れない夜を過ごす事になり、講師担当メンバーは、本業の傍らリハーサルを繰り返すことになる、メンバーには平身低頭感謝の気持ちでいっぱいだ。

昨今〇〇女子といった言葉が流行しているらしく、建設業でも理系女子・土木女子と言って女性の活躍が脚光を浴びている、女性が建設業に興味を持ち技術者としてもっと活躍して、暗い業界に少しでも明るい光を与えて貰えることはこの業界に携わる者として有難いことである。

私達の活動も転換期を迎えた今、「次世代を担う建設技術者の確保」を次の活動方針として進めてゆきたいと考えている。現実問題として 35 歳以下の技術者不足は近々の問題として深刻化している、現場で汗水流して泥まみれになるそんな姿は、土方 (どかた) のイメージが付きまとい、ホワイトカラーの代表である IT 企業戦士と言われるようなスマートさとは程遠い存在が若者に目を向けさせない問題なのではないかと思っている。そんなイメージを払拭する手段として、今までは溝清掃などのボランティア活動を主として行ってきたが根本的な解決になっておらず、ただ労力の提供として捉えられている感がある。土木建設の意義、楽しさ、社会に対する貢献など土木建設は素晴らしい職業であることを、次の時代を担う若者の代表である小学生に年間を通して、定期的に言葉として伝える事が出来るのなら、暗いイメージを払拭し土木建設に興味を持ってくれる若者が増えるのではないかと、その為に何が必要でどのような働きかけが必要なのかを、模索し苦しんでいるメンバーを見るたびに、10 年前、高い意識を持ち設立した私達の NPO は、いまだ高い意識を持ち続けていると確信している。

特定非営利活動法人 宮崎 CALS ネットワーク

理事長 星野隆幸

〒880-0824 宮崎県宮崎市大島町南窪 8 1 4 番地 4 マルコービル 2 F

<http://www.jinrei.co.jp/npo-mcn/>